

第8回逗子の未来協議会 グループワーク「市民参加」まとめ

- 市民が「市民参加」の制度 を活用しきれていない理由、関心がもてない理由
- 「市民参加」について 一番大切な考え方

【第1班】

- 市民参加は敷居が高いイメージ
- 市民参加しやすい方法をもっと簡単にすべき
- 町内会（新宿）って、今は何だか参加しづらい
- 町内会の動きが少ない
- 新宿会館がいつも使えるなんて知らなかった（新宿在住）
- **これからの高齢社会には市民参加が大切、絶対必要**
- 情報網の活用
- 住民自治協議会
- **広義と狭義の市民参加**
- 円卓フォーラムの人数のハードル
10人の制限があるというのは・・・(PTA) → 申し出があったら市が集めてくる
→ 集合する場所があればよいのでは
- お出かけ円卓フォーラム、おおむね10人以上というのは敷居が高い
1人が申し込み → 市が広報 → 10人以上集まったら開催 という方法はいいのではないか
- テーマを提示し、それに賛同した人が参加するというのも1つの方法
- 市民参加のベース → 町内会・自治会＋組合
“身近な町内会すら参加者・入会者少ない”
↓
関心ない → なぜ？
 - 関心ある人が参加しない
 - 逗子に寝に帰るだけ
- 投げっぱなしの市民参加
- パブコメとか
- **地域コミュニティなどの掘り起こし**
- WSのメンバーをある程度指名する（関係者・無作為）
- テーマ設定の具体性 抽象的でも分からない
- 市民参加の成果が見えにくい？ ← フィードバックが重要

- 市民参加に関する情報が伝わってこない
- 参加？ 参画？
- 個々が「市民参加」していることに気付く → 積極的参加へ
- 企業、PTA、地域活動団体、民生委員 etc
→ 住民自治協議会、もっと気軽に参加できる形は？
- 自分がやらなくても…
- 世代や興味など多様で行動（パブコメ等）につながらない
- 関心がない
- 時間がない
- 「具体例」を基に話し合わないと、とっつきにくい
- 行政が団体間の連携をとって、情報共有することも市民参加を促すことに
- 自治会にマンションは入れない（断られた） → 市民参加の機会が失われた
- 見守り活動（自然と関わっていることも市民協働なんだというのを条例に入れたい）
- お任せしてもうまくいっていると思ってしまう
- 情報がない
- 興味・関心がないから面倒くさい
- 市民活動の制度と WS 等の行事が意識の中で結び付いていない

【第2班】

- ワークショップの存在意味多し
→ 敷居が高い印象があったが、参加しやすい場の設定が大切
- 声を上げやすい場の設定
- 顔を合わせない意見を言う場も必要では
- **若い世代を代表する制度を作る** → 金曜日の午後
- まちづくり基本条例 → ほととぎす会
基本計画 学校の緑化
- 行政の縦割り
- かたいものからソフトなものまで
- 過程への話 ワークショップ
- 制度が知っていない
- 知っていても出る余裕がない（週末は…）
- 市長への手紙という手法があった
30年 個人攻撃がある
- いちばん身近な町内会では、このワークショップが意味をもっている
- パブリックコメントが主に
- 市民の情報誌
- 制度が知られていない
これまでの仕組みと違う

- 「市民参加」ってなに？ → 情報入手 どうやって参加するの？
 - 自ら取りにいかないといけない
 - HP 見る、アクセスするか？
 - センターに行くか？
- 忙しい、自分の時間
- はじめの一步、機会があれば
- 参加しやすい方式
義務的な感じにならない工夫
若い人がいるイベント
週末じゃない？
サイレントマジョリティ意見どうやってとるか？ネットだと無責任？
- WS 形式
- 制度上の「市民参加」は敷居が高い、ハードルが高い
- イベント等での参加はしやすい
→意見交換の場
- 意識の高い方々、世代の声で物事が決定する
- 市のブランド・魅力につながる
- いろいろな世代が声を出しやすい場は？
- 市民が市を良くしていこうという根本が共有されると…

【第3班】

- 興味もてない人に興味をもたせる工夫の必要（徹底 PR の必要）
- 市民参加条例の存在自体の PR の必要
- 重点課題と非重点課題の区分（重点分け）
- 市の重点課題を事前に PR し、その重点課題に絞った市民参加を考える
＝（市民の関心が深いと思われる）
- 条例の存在を知らなかった
- 興味がなかった
- 何のために行うのか解らない
- 必要性が解らない
- どんない良いことがあるか解らない
- 全てのテーマに市民参加が必要ではない？（各テーマそれぞれに興味をもつ人が参加すべき）
- 花火大会は市民の関心が高いか
- 重点課題と非重点課題の区分けが必要
- 無関心による結末が怖い
- 逼迫した状況にならないと動かない
- 市民に関心をもたせたい
- 関心がある事柄について、市民参加すればよいのでは？

- 自分事ではないものには関心がもてない
- 参加に対する反応（手ごたえ）がないと関心につながらない

【第4班】

- どこから予算が出ているのか
- 細かいことが気になる方はいっぱいいる
- 役所が無駄なことをやっている
- 個人の関心が少ない、足りない
- 実際に何をやっているのか考えることをしない
- 前回のテーマと被るが情報発信がうまくできていないと思います
- この協議会への質問があったら、回答は誰がするのか？
（会長も規約もないのが現状） → 企画課長がするべし
- 市民参加は市政の情報を市民が早く正確に十分に知ることができないと機能不全になる
 - 計画が出来上がって変更できなければ市民意見を述べても無駄だからだ
→ 情報は早く提供するべし（と規定を！）
- 市民参加はそれによって行政に反映があることが大切だ
 - 例として、事業アセスでなく計画アセス（計画の中止もあり）にしてほしい
- 地区協議会では小さな声もあがるのに代表者はそれを市に伝えきれないので、小さな声も反映するような場は市民参加に大切
- フェスティバル・花火大会などのイベントへの参加なら容易
 - これも市民参加？
 - 市民参加の定義が必要
- 各地区ごとのグループでの議論もすることが必要
- 地区協議会はいつどこでやるか、また、予めテーマを知らせ結論も知らせてほしい
- 大津波が来たときにどこに避難するかを計画し、避難所を作るべきだ
 - このようなことを市民参加でできればよい
- 代表者会？ — 計画アセスメント — アンケート？
 イベントなどの軽い参加 — 公開討論？
- あるテーマについて、一般（全体）市民が公開で意見を述べる場
- 協議会が機能する規約と制度を
- 個人もしくは個々の家庭の生活維持に精一杯で市政に関しては、市がやってくれるだろうという気持ちが働いてしまうと思う
- 市民の参加することはまだ早いような気がします
- 未来の会がまだまとまっていないと思います
- 基本条例を作った後
 - アセスメント、 タイミング重要

【第5班】

- これからは市民参加を強くする必要あり

働きかけをする 例：京急など

テロップが流れる 信号で待っているときなど

⇒ 地域のつながりを強くする

町内会の重要性

- 声かけをしてもらう
- 手助けをしてくれる人がいれば参加しやすい

- 若い人が参加しない理由

時間の制約

興味がない

⇒若い人を呼ぶ

来ない理由をアンケートする

- 市民が答える意欲をもつ、受け取る側の意識

⇒関心をもってもらふ ⇔ 情報の提供

- 掲示板の活用

室内に置く

- 広報の情報量が多い } → 費用をかけない
- 広報の方法 }

- 若い世代に興味をもたせる } インターネットの活用？
- どうして来ないか聞いたらどうか？ }

- HP じゃ見ない（受け手がしっかり見る）

- 地元の祭り — 各団体の協力 — 連携つながり

- 市民一人での市民参加は難しい

→ 団体（複数）での参加などクッションが必要（第3者的要素）

- 異動のとき、業務の引き継ぎだけでなくパイプの引き継ぎも ←
- パイプがしっかり

市 ⇔ 町内会でのまとまりが足りてない

- 市より連絡、指名で参加 自治会等活用 市民窓口を広げる

- 市民参加の取組み（例）ホトトギス、植樹（例）歴史的建物の風通し
このような活動がもっと市民に伝えられることが望ましいのではないか
インターネットでの配信

- ボランティア活動の団体でイベント設ける

→ ボランティア活動を取りまとめるボランティア

- 住まいの近くをアダプトを組み、草刈りやホテルの育成を行っている

- 行政と市民の窓口を広くする（煩雑）→ まとめる課 なんでもやる課 ← 行政
縦割り打破

副市長のファンクション？

【第6班】

- 市民参加の状況を広報紙で特集してみる（清掃活動 etc）
- 成功例が見えない、必要性を感じない — 伝え方、今まで興味がなかった
- 自治基本条例ってなに？
- 周知が足りない



- 身近な市民参加の成功事例を知らないから関心を持ちにくい
 - 事業そのものの理解ができない、分からない
 - 議会との兼ね合い → 反映される
 - 時間がかかる（休みは休みたい）
 - 自身との関係した問題に特出したものであれば参加意識が高まる
 - ローカルネットワークの欠如（何をする役員？）
 - 協力・助け合い精神の欠如
 - 市民参加の前に隣が誰か分からない状態だから何をすればよいのか？
 - インターネット利用で周知
 - 選挙ほど目立たない
 - 学校でもやらない
 - 市民の声を取り入れたい
 - 若い人たちを巻き込むため HP に提案コーナーを作る
 - 逗子 HP をもっと面白く！！
 - イベントへの参加がまちづくりへの参加につながると良い
 - 決めるとき、実施するとき
- 市民参加 → ① 選挙で議員を選ぶ…間接的、抽象的
- ↘ ② 市民が直接決め、実施に移す
- 具体的に小さな地域で — 住んでいるところに目を向ける
- 市民の意見は多極的である
 - したがって → 行政も縦割り → 横繋ぎ的に対応できる体制があれば
市民参加を活用化する
 - ディベートの習慣を、市民参加の方法の中に組み込む
 - 少なくとも2つの方法がある
 - ① Face to Face の情報交流 — 責任感をもつ
 - ② HP、ネットによる、それとの両方が要る — 無責任になる
 - インターネットによる特に若い市民の間の相互情報交換・情報交流
 - （参加） 政策形成へ
 - 決めると作るのと段階のこと、誓うだけで終わってしまいそう
 - 市民への問いかけ方（自治基本条例 WS 初聞で解らない） 抽象的
 - 日本社会の中で市民生活（日常）の時間をもっと豊かになることが市民参加の活動を活性化する

【第7班】

- 自治会の仕組み作り

自治会に入れない人もいる — 地域性の問題あり

・新しく入ってきた人たちを知らない — 現役の人は通勤しているので関心ない、もしくは意見の吸い上げは難しい

— 回覧板の活用 (自治会)

— 意見、最小限でも OK

→ 行事が終わった後に回ってくることも

→ 興味をもつよう工夫が大切

・区域の中でも知らない人がいる

自治会等役割大切

市民参加の第一歩

自治会などに参加していれば参加しやすいのでは

無関心

- 自治会でできることとは？
情報が上がってこない。出した意見が生きれば、次の言葉も出るが、表れていないと関心がなくなる
- ホームページ等での適切な告知が必要
— パブコメ等、表面だけ効力を出しているのか
- 議会の傍聴はできるのか — できる — 傍聴参加の応募の仕方
- 案内があっても参加しづらい — 案内が不十分
参加してもいいのかも分からない
- 市の行事の関心がなかった、知らない
- 現役世代 (ほとんど) 日常、仕事に追われたりしている 土日外出してしまう
時間がない、帰りが遅い、市民参加に接していないのでよく分からない、逗子の関心があまりなかった
- 参加しなくても生活できたから = 議会 (人数多すぎる) が機能しているのかと言えそうでもない (特定の人々の代理、市井の人の声ではない) = 池子の問題等

【第8班】

- どのように参加するのかわからない → 子どもの頃から広報を読む習慣、教育
- 仕事・家庭で忙しく時間がない → インターネットで参加 → 面白くない
 ↘ HPのプロ、コンサルタントを 使い勝手悪い
- 利害関係の有無（市と直接的な利害関係）
- 税金の配分も市民参加で考える
- 社会保障費（介護保険など）の増についても、自ら検診を受けることも、市民参加では（社会保障費の抑制）
- グループではなく、一人でも市民参加しやすいような工夫を → （海岸清掃）
→ 一人でもゴミを捨てられるように
- 市民参加 仲良くする方法
- 生存 きれいな町づくり
- 自分の家
- 市民参加という定義を市がしているので、関心をもたれていない、参加されていないというが、本来市民参加は皆しているのではないか
- グループに属しないと市民参加していないと捉えられているような節があるが、関心をもった際には、受け入れが誰でもされるように門戸を常に開いてほしい
- 社会参加 = 市民条例 ⇔
 ↓
 市民参加は全員参加を基本とする
- 市民参加のハードルを下げる
- コミュニティは入りにくい
- 自治会役員がどう決まっているのかわからない密室の中で決められる、
- 無駄が多い、内容で無駄が多い、必要のない条例が多い？

【第9班】

<市民参加 活用しきれていない理由 関心をもたれていない理由 テーマ1>

- 自分に関係ない？ 情報が伝わらない
 → 伝えるためには宣伝でなく、実績を積み重ねること
- 参加は必要だが、公募、パブコメは関心がある人だけ
- サイレントマジョリティの声を吸い上げる
- 58,000人の市民参加なんか無理。意見を集約し、上にあげていくべき
- 自治会 → 協議会で集約
 ↓
 市の伝達機関にならないか → 幅広いとか、広域的意見
- パブコメは反対の人しか意見しない → 2回実施はいかが。賛成意見の働きかけ
- パブコメ 2回

- 行政のアリバイ作り
- 防犯カメラ
 - 県の補助・市の補助ないとつかない → 市の制度は追いつかない
- 関心をもってもらおう → 参加すれば意見がある（人それぞれ）
- 住民協知らない人がいる（2年もたっているのに）
- 意見を吸い上げるようになっていない
- 情報誌、タウン誌 = 市民がつくる
- サイレントマジョリティの意見は住民協の役目
- パブコメは反対の意見が大きい
 - でも知らないといけない
 - 市長が判断できるのか？
 - 少数の意見が通ってしまうのはどうなのか？ 予算の問題もあり否定される
- 手間かかる = どれくらいの成果があるのか？
 - 意見そのもの（行政は求めているの？）
 - 〔 言ってもしょうがない、あきらめもあるのでは？
議会との関係〕
- 活用されていない国全体でも言える
- 縦割り → なんでも課？ボランティア？
- 人によって関心が違う
 - 地域の違い（基地問題、病院問題）、ゴミなどは皆のテーマ
- 市民参加自体を知らない
- 意見を出すには気が引ける
- 若い参加者が少ない
- ワークショップの成果、アピールするべき
- 発信の仕方を相手に合わせる

<市民参加有効になるアイデア テーマ2>

- 関心をもってもらおう、市民参加が少ないと困るのか？
- 平日の夜、市民参加できる人が増える → 社員の働き方が変わってきている、早帰り、若い人の意見があった方が良い
- 市民が議会に直接言える仕組みがあればよい
- 市民参加しないと本当に行政は困るのか？ 行政運営ができないのか？
例えば、県行政は県民参加をメインにしていないのでは？

【第10班】

- 若い人が参加しやすい時間帯（平日、夜も）、場所（サロン、コミュニティ）
- 自治会や協議会などに意見を聞く
 - 今の市民参加は市の口実づくり
 - 5万人の市民に全て意見を聞くのは困難
 - 地域の意見を
 - 市民参加プロセスも
- 多くの意見の集約プロセス
- 情報を流す仕組み
- 年代別・テーマ別・地域別の市民参加を
- 市民団体との連携
- 関心のある内容でない場合が多い
- 休み・夜間などとしてもなかなか時間が取れない
- 意見が取り入れられることが少ない
- 職員の意識を高めて市民に接する